

世界を観る、世界観

外交学院学生代表

見学日時：2018年6月1日（金） 16:30-19:45

見学場所：住友商事株式会社

見学概要

1. 企業概況

住友商事株式会社は日本の著名な総合商社である。1919年に創立、戦後は貿易事業に従事し、1952年に現在の住友商事株式会社に改称した。同社は世界各地において積極的に事業を展開しており、各産業分野において事業投資を行い産業の構造転換と高度化を促進し、輸出入及び対外貿易により世界の各国・各地域の消費者に多彩な製品や販売サービスを提供し、さらに国内外での事業投資において同社独自の総合力や競争力を高めるなど事業分野を絶えず拡大している。同社はまたCSR活動に力を入れており、社内関係部署や国内外地域組織・グループ会社と連携し、経済、社会及び環境等の面での発展に貢献している。

2. 見学記録

充実したスケジュールであったこの日、ついに最後の訪問先である住友商事株式会社に到着した。建物内に入ると、一種の高級感のようなものを感じた。その後会議室に入り同社の紹介が始まった。まずサステナビリティ推進部の大野茂樹部長より歓迎のあいさつがあり、次いで貞川晋吾シニアアナリストより住友商事の概況の紹介があった。今回住友商事を訪れるまでは「総合商社」というものについては何の概念もなかったが、貞川氏の紹介により私たちは総合商社におけるいくつかの特徴について知ることができた。その特徴とは第一に事業展開する商品が多いということで、住友商事では様々な業界分野において事業を展開している。また第二にグローバル化・多様化した貿易形態ということで、日本国内のみならず世界各地において輸出入、三角貿易及び事業投資などを行っている。そして第三に巨額の売上高そして巨大な経営規模ということである。以上をまとめると、住友商事は貿易や事業投資を事業における二つの中核とし、時代の発展や変化に絶えず適応し、企業の機能や役割を調整することで時代をリードする事業を生み出している。次に、グローバル人材マネジメント部の楊方副部長より同社が人材に対して求める要素についての紹介があり、同氏曰くリーダーシップ、協調性、人脈そして職業倫理はいずれも重要であるとのことであった。また、その他の企業と異なり住友商事では人材の特徴の違いを踏まえ、それぞれに個別の長期的発展プランを定めている他、人材備蓄や持続的発展メカニズムも有している。これは一般の中国企業においては聞いたことがないものであった。最後に、同社において最前線で活躍する中国人スタッフが私たちと交流を図り、彼らの実体験を通じ私たちはよりよく理解ができた。その中でアニマルヘルスサイエンス部の宋誠超参事は日本文化の紹介を通じ日本の企業文化の分析を行い、日本企業が企業の寿命、信用及びチームワークを重視しているため、長期的発展、多面的目標そして人材育成を追求しているとのことであった。その後私たちは27階において住友商事のスタッフとの懇親会に参加し、皆は楽しく交流を図った。



学生からの質問に答える楊方副部長

SCSK 株式会社理事の東巍氏からの東アジアビジネスに関するお話の中では、1992年に同氏が上海に派遣され、ある時電子レンジを使用していて、レンジ内に置いたコップの取っ手が30秒の使用の後に当初の位置になっていないことに気が付いたとのエピソードが紹介された。日本では設定時間の長さを問わず必ず当初の位置に戻る。こうした一見些細な点は日本企業が可能な限り顧客の立場に立ち、使用者へ配慮し、顧客の要望を踏まえ製品の開発と改善を行っていることを示している。



感想

住友商事における最大の収穫は広い視野を持つことの重要性を知ったことである。宋誠超氏の言うところの「世界を観る、世界観」である。グローバル化が日々高まる今日において、世界各国のつながりはより密接になり、国家や民族だけにとらわれる発想は狭量で恐ろしいものである。私たちは遠くを見据え、広い視野を持ち、自らの無限の可能性を見つける必要がある。そして絶えず自分を高め、リーダーシップや協調性といった素養を持つ国際的な人材となるべく努力しなければならない。またそれと同時に、次世代の青年としての社会的責任感、社会に還元するという意識や理念を持ち、全人類のより良い生活のために自分なりの貢献をしていく必要がある。